

ひかりノベ**
hikari*renovation

お問い合わせ先

0120-818-250

〈 営業時間 〉 10:00-18:00 (水曜日定休)

〈 メール 〉 service@hikarinobe.co.jp

運営会社

株式会社ネクサス・アールハウジング ひかりノベ事業部

〒130-0015 東京都墨田区横綱1-2-16 東誠ビル 6F

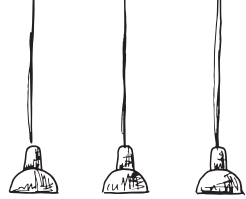
〈 ホームページ 〉 <https://hikarinobe.com/>



DOMAのある家

ひかりノベの戸建てリノベ

hikari*renovation



third place.



*A place that connects
the inside and the outside.*

Episode 1

土間一 内と外のあいだ

かつては多くの家が備えていた土間。ときに応接間に、ときに仕事場に、炊事や家事の場に。室内では靴を脱ぐ習慣のある日本の住まいにおいて、土足で過ごせる空間を残しておくことは、たいへん合理的な生活の知恵でもあり、家の内と外をつなぐ、いまでいうサードプレイスのような役割ももっていました。

少々の汚れを気にしなくてよい土間は、使い途も居室以上に「住人十色」。
ストーブを据えて、あたたかな火を囲むセカンドリビングに。
居室には置くのをためらうような、大小のグリーンをふんだんに並べて、小さな庭のように。

ロードバイクと手入れ道具を板張り壁に引っ掛けて、手になじむ道具箱みたいなガレージに。
玄関を通ることなく、縁側のように気軽に立ち寄り、気の置けない仲間のつどう家カフェに。
在宅ワークの増えたいまなら、ホームオフィスとしても使い勝手が良いかもしれません。

その人の暮らしぶり、その時々用途にあわせて。そんなおらかな弾力性をもった空間を家のなかにもつことは、ある意味でどんな豪華な装飾よりも豊かなことといえるのではないのでしょうか。
いまこそ『DOMA（土間）のある家』を、ひかりノベは提案します。

和室を土間に

*Infinite possibilities
through renovation.*



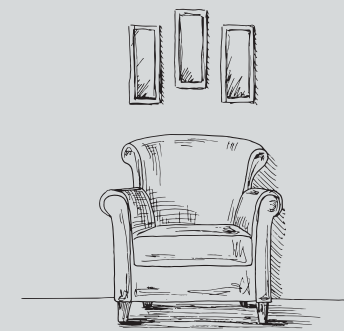
築20年前後の戸建住宅によくある、リビングわきに和室を備えた間取り。

現代の暮らしでは持て余してしまうことの多い和室を活用し、土間へとリノベーションすることで、使い途に困っていた空間から、無限の可能性が広がります。

和室だったスペースに新たに生まれたDOMA（土間）は、床高をスキップフロアの要領でリビングから一段下げ、靴を脱いで上がる場所とゆるやかにゾーニング。玄関とは別に、縁側のように窓から気軽に出入り可能です。

壁や床の内装材は、用途やお好みに合わせてご自由に。土間とひと口にいても、コンクリートの床、タイルの床、壁はクロスか、珪藻土や漆喰か、板張りにするか……収納棚を造り付けたり、天井にフックを付けてグリーン類を吊り下げたりと、アレンジしだいで印象はガラリと変わります。

隣接したLDKとの調和も、忘れてはいけないポイントです。もちろん、ひかりノベの戸建てリノベはフルリノベーションですから、土間もLDKも、玄関も、お風呂や洗面といった水廻りも、トータルでご提案いたします。





Episode 3

いろいろな土間

土間の定義とは、辞書を引くと「家の中で床を張らず土足で歩く場所」とあり、土足空間であるほかは、内装も広さも用途も、とくに決まりはないようです。土足空間とはつまり、少々の汚れは気に病む必要がないということ。

ロードバイクのガレージや、ドッグハウス、温室や庭のようにあふれるほどのグリーンを並べても良い。絵や陶芸をやる方には、アトリエとしてもつかえますし、冬の夜はストーブを据えて暖をとるのも、エアコン暖房にはない、独特の味わいがあるものです。

またもうひとつ、この土間の特長は、玄関とは別に出入りができる、外に向かって開かれた場所である、という点です。靴を履いたまま過ごす土間は、玄関から家に上がるときの、「よそのお宅にお邪魔する」というもののしさがありません。

ちょっとお茶でも飲みこない、と友人を誘うときも、招くほうにも招かれるほうにもよけいな気兼ねがありませんし、在宅ワークの進んだ昨今では、打ち合わせができるワークスペースとしても重宝です。

あえて何をする場所と決めずに、ある時はアトリエ、ある時は応接室と、その時々用途に応じて家具や道具を持ち込んでも良いのではないのでしょうか。さまざまな用途に応えうるおおらかさこそが、土間の魅力ですから……。